



## 平成22年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月13日

上場会社名 横浜冷凍株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2874 URL <http://www.yokorei.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉川 俊雄 (TEL) (045) 326-1010  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部 部長 (氏名) 岩田 修自 配当支払開始予定日 -  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月13日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年9月期第3四半期の連結業績（平成21年10月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年9月期第3四半期	90,772	9.4	3,147	286.2	3,393	211.5	1,679	179.7
21年9月期第3四半期	82,982	-	814	-	1,089	-	600	-

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年9月期第3四半期	32	45	-	-
21年9月期第3四半期	11	59	-	-

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
22年9月期第3四半期	82,203		56,088		67.9	1,077	81	
21年9月期	79,249		55,553		69.7	1,067	34	

(参考) 自己資本 22年9月期第3四半期 55,779百万円 21年9月期 55,267百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
21年9月期	-		10	00	-		10	00	20	00
22年9月期	-		10	00	-					
22年9月期(予想)							10	00	20	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無: 無

### 3. 平成22年9月期の連結業績予想（平成21年10月1日～平成22年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	118,205	6.2	4,025	130.9	4,300	110.6	2,155	121.0	41	64

(注) 当四半期における業績予想の修正有無: 有

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：無

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：無

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

22年9月期3Q	52,450,969株	21年9月期	52,450,969株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

22年9月期3Q	698,225株	21年9月期	670,460株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

22年9月期3Q	51,767,037株	21年9月期3Q	51,796,345株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を終了しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(第3四半期連結累計期間) .....	6
(第3四半期連結会計期間) .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) セグメント情報 .....	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

## ①平成22年9月期 第3四半期連結累計期間の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、特に、中国などの東アジアの新興国を中心とした海外経済の回復を背景に、輸出や生産は増加基調で推移し企業収益の改善が続くなか、個人消費は経済対策の効果もあり持ち直しが見られるなど、景気は緩やかに回復しつつあるが、依然として高水準な失業率、設備・雇用の過剰感を払拭できず、また、4月下旬以降のユーロ圏における財政赤字問題やこれに伴うユーロ安・円高の進行も加わり厳しい状況で推移しました。

食品関連業界におきましては、厳しい雇用・所得環境が続くなか、消費者の節約志向・低価格志向が依然として継続していることもあり、個人消費は低水準で推移する厳しい事業展開となりました。

このような状況のもと当社グループは、平成20年11月に発表いたしました新中期経営計画（3ヵ年）に基づき、冷蔵倉庫事業部門では多彩な物流サービスの積極展開、食品販売事業部門では原料サプライヤーとしての機能向上を運営方針として、ともに更なるサービスの高度化や新規需要の開拓に積極的に取り組んで業績の向上に努めてまいりました。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結経営成績は、売上高90,772百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益3,147百万円（前年同期比286.2%増）、経常利益3,393百万円（前年同期比211.5%増）、投資有価証券売却損144百万円、固定資産除売却損51百万円、商品在庫関連損失38百万円、貸倒引当金繰入額31百万円等の特別損失265百万円を計上し、四半期純利益は1,679百万円（前年同期比179.7%増）となりました。

なお、6月に当社100%出資の連結子会社である株式会社セイワフードが、うなぎ蒲焼製品の産地を偽って販売していた事実が判明し、皆様にご迷惑、ご心配をおかけいたしましたことを心より深くお詫び申し上げます。今後は、当社グループ全体における食の安全・安心に向けてのチェック体制の強化、コンプライアンス意識の浸透を目的とした社員教育の実施など、指導・監督を徹底することにより、再発防止と是正に努めてまいります。

## ②セグメント別の概況

## [冷蔵倉庫事業]

個人消費低迷や在庫調整の影響により全体的に荷動きが鈍い状況が続く環境下で、ブロック体制を軸としたエリア密着型の集荷活動を展開する一方で、作業効率改善等によるコスト削減に取り組んでまいりました。

貨物取扱量の状況は、内貨貨物は期を通して前年を上回り、外貨貨物については、期初から減少傾向にありましたが、2月以降から徐々に増加基調に転じ、前年同期の水準を維持することができました。その結果、前年同期と比べ入庫取扱量は約14千トン、出庫取扱量も約30千トンの増加となりましたが、平均保管在庫量が7.2%減少したことで保管料収入が伸びず、売上高は前年同期と比べ減少いたしました。

利益面については、収益重視の集荷活動及び作業費等のコスト削減に積極的に取り組み、営業利益は前年同期と比べ増益となりました。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の業績につきましては、売上高は13,904百万円（前年同期比4.3%減）、営業利益は2,765百万円（前年同期比2.3%増）となりました。

## [食品販売事業]

国内消費需要の低迷に加え、水産物及び畜肉相場は低水準で推移する販売環境下で、事業部制による徹底した在庫管理と利益率を重視した販売活動に取り組んでまいりました。

品目別の状況は、水産品については、秋鮭の輸出及び昨年設立した連結子会社の株式会社アライアンスシーフーズを活用した輸入鮭鱒の販売が好調に推移したことや、サバの輸出増に加えてエビ、イカの主要品目も順調に販売数量を伸ばし増収増益となりました。畜産品は供給過剰によるポークの販売数量が大幅に減少し減収となるが、ポーク・チキン相場の安定していたこともあり増益となりました。また、農産品は昨年4月にオープンした旭川出張所が販路を拡大し、増収増益となりました。当第3四半期累計期間につきましては、水産品の業績が売上高及び営業利益に大きく貢献しました。

以上の結果、食品販売事業の業績につきましては、売上高は76,840百万円（前年同期比12.3%増）、営業利益は1,625百万円（前年同期は808百万円の営業損失）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## ①資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前連結会計年度末と比べ2,953百万円増加し、82,203百万円となりました。これは主に商品が4,885百万円、売上債権が285百万円増加したことや、現金及び預金が1,012百万円、有形固定資産が586百万円、投資その他の資産が807百万円減少したこと等によるものです。

負債総額は、前連結会計年度末と比べ2,418百万円増加し、26,114百万円となりました。これは主に借入金が3,407百万円、設備関係支払手形が314百万円増加したことや、仕入債務が429百万円、未払金が927百万円、社債が247百万円減少したこと等によるものです。また、純資産につきましては前連結会計年度末と比べ534百万円増加し、56,088百万円となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ915百万円減少の4,278百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

## [営業キャッシュ・フロー]

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,381百万円の資金の減少（前年同四半期は4,180百万円の資金の増加）となり、その主な内容は税金等調整前四半期純利益3,156百万円、減価償却費2,298百万円による資金の増加と、売上債権の増加額284百万円、たな卸資産の増加額4,873百万円、仕入債務の減少額429百万円及び法人税等の支払額1,044百万円の資金減少などによるものです。

## [投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,675百万円の資金の減少（前年同四半期は4,824百万円の資金の減少）となり、その主な内容は有形固定資産の取得による支出1,972百万円と長期前払費用の取得による支出389百万円及び投資有価証券の売却による収入701百万円などによるものです。

## [財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,139百万円の資金の増加（前年同四半期は1,399百万円の資金の増加）となり、その主な内容は金融機関からの借入の純増額3,407百万円による資金増加と、配当金の支払額1,033百万円などの資金減少によるものです。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年5月7日に公表いたしました平成22年9月期の通期連結業績予想につきましては、以下のとおり修正いたしました。

売上高118,205百万円、営業利益4,025百万円、経常利益4,300百万円、当期純利益2,155百万円。

なお、詳細につきましては、平成22年8月13日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. その他の情報

## (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

## (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

## (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,293	5,305
受取手形及び売掛金	14,289	14,003
商品	10,692	5,806
その他	773	489
貸倒引当金	△18	△33
流動資産合計	30,029	25,571
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,860	22,654
機械装置及び運搬具(純額)	3,647	4,042
土地	17,812	17,170
建設仮勘定	434	606
その他(純額)	591	458
有形固定資産合計	44,346	44,933
無形固定資産		
のれん	1,463	1,600
その他	1,467	1,440
無形固定資産合計	2,930	3,041
投資その他の資産		
投資有価証券	3,179	4,073
長期貸付金	469	647
その他	1,367	1,193
貸倒引当金	△120	△212
投資その他の資産合計	4,896	5,703
固定資産合計	52,173	53,678
資産合計	82,203	79,249

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,298	8,727
短期借入金	5,056	900
1年内返済予定の長期借入金	1,252	1,162
1年内償還予定の社債	280	300
未払法人税等	901	726
賞与引当金	181	523
役員賞与引当金	21	29
その他	2,271	2,450
流動負債合計	18,262	14,819
固定負債		
社債	252	480
長期借入金	6,641	7,480
退職給付引当金	416	390
役員退職慰労引当金	327	305
その他	214	220
固定負債合計	7,851	8,876
負債合計	26,114	23,695
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,065	11,065
資本剰余金	11,109	11,109
利益剰余金	34,176	33,532
自己株式	△517	△500
株主資本合計	55,834	55,207
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	98	200
繰延ヘッジ損益	△20	△1
為替換算調整勘定	△132	△138
評価・換算差額等合計	△54	60
少数株主持分	308	286
純資産合計	56,088	55,553
負債純資産合計	82,203	79,249

(2) 四半期連結損益計算書  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
売上高	82,982	90,772
売上原価	77,915	82,519
売上総利益	5,067	8,252
販売費及び一般管理費	4,252	5,104
営業利益	814	3,147
営業外収益		
受取利息	21	23
受取配当金	61	66
負ののれん償却額	—	31
助成金収入	129	75
保険配当金	23	27
その他	185	197
営業外収益合計	421	421
営業外費用		
支払利息	116	142
その他	30	33
営業外費用合計	146	175
経常利益	1,089	3,393
特別利益		
役員退職慰労引当金戻入額	33	—
固定資産売却益	2	3
投資有価証券売却益	—	24
特別利益合計	36	28
特別損失		
固定資産除売却損	71	51
投資有価証券売却損	7	144
投資有価証券評価損	35	—
ゴルフ会員権売却損	—	0
貸倒引当金繰入額	39	31
商品在庫関連損失	—	38
特別損失合計	154	265
税金等調整前四半期純利益	971	3,156
法人税、住民税及び事業税	161	1,230
法人税等調整額	192	191
法人税等合計	354	1,422
少数株主利益	16	53
四半期純利益	600	1,679



(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	27,986	28,227
売上原価	26,056	26,032
売上総利益	1,929	2,194
販売費及び一般管理費	1,386	1,576
営業利益	543	618
営業外収益		
受取利息	10	7
受取配当金	41	44
助成金収入	48	—
その他	113	129
営業外収益合計	214	181
営業外費用		
支払利息	51	45
その他	9	7
営業外費用合計	61	53
経常利益	696	746
特別利益		
固定資産売却益	0	2
投資有価証券売却益	—	3
投資有価証券評価損戻入益	29	—
貸倒引当金戻入額	—	4
特別利益合計	30	10
特別損失		
固定資産除売却損	19	18
投資有価証券売却損	6	97
貸倒引当金繰入額	0	31
商品在庫関連損失	—	38
特別損失合計	25	186
税金等調整前四半期純利益	700	570
法人税、住民税及び事業税	116	196
法人税等調整額	144	73
法人税等合計	260	269
少数株主利益	5	7
四半期純利益	434	293

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	971	3,156
減価償却費	2,354	2,298
のれん償却額	110	136
負ののれん償却額	—	△31
賞与引当金の増減額(△は減少)	△395	△341
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△9	△7
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△30	25
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△89	22
貸倒引当金の増減額(△は減少)	22	63
受取利息及び受取配当金	△83	△89
支払利息及び社債利息	116	142
固定資産除売却損益(△は益)	69	48
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	43	119
売上債権の増減額(△は増加)	2,312	△284
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,528	△4,873
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,126	△429
未払費用の増減額(△は減少)	40	273
その他	295	△507
小計	5,129	△278
利息及び配当金の受取額	77	91
利息の支払額	△129	△149
法人税等の支払額	△897	△1,044
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,180	△1,381
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,689	△1,972
有形固定資産の売却による収入	58	5
無形固定資産の取得による支出	—	△45
投資有価証券の取得による支出	△303	△96
投資有価証券の売却による収入	12	701
長期前払費用の取得による支出	—	△389
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,937	—
貸付けによる支出	△78	△2
貸付金の回収による収入	192	21
その他	△78	101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,824	△1,675

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△5,980	4,156
長期借入れによる収入	9,046	300
長期借入金の返済による支出	△425	△1,049
自己株式の取得による支出	△16	△17
少数株主からの払込みによる収入	15	—
配当金の支払額	△1,087	△1,033
少数株主への配当金の支払額	—	△2
社債の償還による支出	△150	△247
その他	△1	33
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,399</b>	<b>2,139</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	1
<b>現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>	<b>743</b>	<b>△915</b>
現金及び現金同等物の期首残高	2,183	5,194
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>2,927</b>	<b>4,278</b>

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)

	冷蔵倉庫事業 (百万円)	食品販売事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	14,535	68,421	25	82,982	—	82,982
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	732	—	—	732	(732)	—
計	15,268	68,421	25	83,714	(732)	82,982
営業利益又は営業損失(△)	2,702	△808	20	1,914	(1,099)	814

当第3四半期連結累計期間(自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)

	冷蔵倉庫事業 (百万円)	食品販売事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	13,904	76,840	27	90,772	—	90,772
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	802	—	15	817	(817)	—
計	14,706	76,840	42	91,589	(817)	90,772
営業利益	2,765	1,625	23	4,414	(1,266)	3,147

(注) 1. 事業区分は、連結会社の事業活動における業務の種類・性質の関連性及び特性を勘案して区分しております。

2. 各事業の内容

- (1) 冷蔵倉庫事業・・・水産品・畜産品等の冷蔵・冷凍保管事業及びそれに付帯する事業
- (2) 食品販売事業・・・水産品・畜産品等の卸売並びに加工処理等の事業
- (3) その他事業・・・不動産賃貸業等

3. 会計処理方法の変更

前第3四半期連結累計期間(自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」2.(1)に記載の通り、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、前第3四半期連結累計期間における食品販売事業の営業損失は59百万円増加しております。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)及び

当第3四半期連結累計期間(自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が10%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)及び

当第3四半期連結累計期間(自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。